令和７年度　東京都立秋留台高等学校　学校経営報告

東京都立秋留台高等学校長
中村　勝徳

自己評価の基準　【A】十分に達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった

１　学習指導

今年度の取組目標と具体的方策	（１）「アキルスタンダード」に基づき、基礎基本の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学び（分かる授業、やり取りのある授業、学んだことが深まりつながっていく授業等）の授業実践を通して、生徒の「分かった・できた・もっと学びたい」をねばり強く応援しながら、思考力・判断力・表現力の育成を図り、「自ら学ぶ力」を養う。 （２）「朝の３０分授業（ベーシックⅡ・セルフマネジメント）・ベーシックⅠ」等特色ある授業のさらなる工夫・充実を図り、「学び直し」や「自立活動」の質を高めていく。また、基礎力診断テストでその成果を検証していく。 （３）教科、学年で資格取得（リテラス（論理言語能力検定）・英語検定・情報処理検定等の資格）に向けて組織的な指導を行うとともに、外部人材等の活用や講習を充実させ、個に応じた学習支援を実施して、学習意欲を向上させていく。 （４）「主体的な学びにつながるよりよい授業づくり」を目指すために、生徒一人１台端末を積極的に活用していく。 （５）校内の教員同士の相互授業見学や校内外での研修に参加し、学校全体で授業力向上に向けた取組を実施していく。
関連する数値目標	①生徒による授業満足度の向上 ②教員同士の相互授業見学や研究授業を通じて、授業の教材や指導方法の工夫をしているかの満足度の向上 ③授業で基礎基本の学力がついたかの満足度の向上 ④ベーシック（学び直し）の授業の満足度向上 ⑤リテラス（論理言語力検定）・英検等の資格取得者(合格者)の増加 ⑥ICT やオンライン（Teams)、Classi、生徒一人１台端末等を活用した授業実践の向上及び生徒の活用率及び技術の向上
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	**１　自己評価【B】** ①　学校評価アンケートによる「授業満足度」は 78%。②「授業の教材や指導方法を工夫しているか」は 78%。③「授業で基礎基本の学力が身に付いた」は 76%。また、④「ベーシックの学び直しは役立っているか」は 73%。いずれの項目も 5～10%の割合で、昨年度よりも下がっている。この結果を真摯に受け止め、「学びの質」の改善をさらに図っていく必要がある。一方で、学校評価アンケートの自由意見欄に、「もっと学びたい」という意見が多かったのは、今年度の特徴であり、3 年間の経年比較を見ても、「生徒の学習意欲」が向上していることがわかる。その事は、基礎力診断テストで、国語の成績率が 3 年間で 55%上昇していることや、⑤リテラスの合格者（3 級以上）が昨年度の 63 名から 92 名に上昇していることがその証左となる。「スキルアップ推進校」として、リテラスや英検等の資格取得者を増やし、生徒の学習意欲を向上させ、基礎学力の定着を図っていきたい。 **２　次年度以降の課題と対応策** 今年度から朝の「ベーシック」に関しては、「学び」を定着させるため、「週に 1 回確認テスト」を導入。また、教員間で授業改善・学力向上の研修を 6 回実施した。 ●次年度も朝のベーシックの内容を 1 年生は国数英中心に、２年生は国数英に地歴公民を加え、3 年生は進路実現に向けた演習等を実施していく。 ●「基礎力診断テスト」の結果で、国数英が苦手な生徒の底上げを実施するとともに、「さらに学びたい」という意欲ある生徒に対して補習・講習等を実施していく。 ●リテラス（論理能力検定）・英語検定・情報処理検定等の講習の充実を図り、合格率を向上させ、「やれば、できる」を実感してもらい、自信をつけさせていく。

２　進路指導

今年度の取組目標と具体的方策	（６）生徒一人一人の進路意識が向上するよう、進路選択に向けた組織的な指導を適切に行う。 （７）進路指導部と学年・担任、教科が情報を共有し、生徒・保護者に最新の進路情報や進路状況を提供し、「チーム秋留台」で同じ目線にたって進路活動を実施し、進路実現を果たしていく。

	（８）進路ガイダンス・分野別ガイダンス・企業研究・インターンシップ・学校説明会等の進路行事の内容を充実させる。
関連する数値目標	⑦進路決定率 95%以上 ⑧進路充実度の向上 ⑨個別の進路相談満足度向上
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	**１　自己評価【B】** ⑦進路決定率は 97.4%に向上。⑧「学校の進路指導は充実しているか」は 79%で 7%減。⑨「教員が個別の進路相談に応じているか」は 91%から 85%に減。しかし、全体的には、進路に関しては比較的高い評価であった。保護者の方も⑧は 85%、⑨は 86%であった。毎年、就職する生徒が減少（昨年度 79 名から今年度は 61 名）し、大学短大（昨年度 30 名から今年度 41 名）が増加傾向にある。専門学校は 90 名近い人数であった。また、共通テストを受験し、合格する生徒もいた。 **２　次年度以降の課題と対応策** 1・2 年の進路行事が、3 年の進路決定に生かされていないところに課題がある。次年度は、１・2 年の進路行事の意義を、あらためて生徒にきちんと認識させ、進路行事の一つ一つを自分のこととして認識させ、それに向かって行動できる体制を作るとともに、各学年とも二者・三者面談を継続的に実施していく。 ●1 年生は、多摩大学と連携して企業研究を行い、職業に対する意識向上を目指す。2 年生では、インターシップ（58 の事業所で実施。）を 7 月に実施し、職業に対する意識を深め、3 年生での進路決定につなげていく。特に 2 年生のインターンシップの事前事後指導を徹底させていく。 ●3 年生は、朝のベーシックで進路に直結した演習を幅広く行い、進路実現に向けて基礎学力の定着を図っていく。また、面接・履歴書の書き方・作文小論文指導をさらに充実させ、進路実現に向けての意識を向上させていく。

３　生活指導

今年度の取組目標と具体的方策	（９）全教職員が一致した指導を組織的に行い、HR、授業、部活動、各集会等あらゆる教育活動を通じて、生命の大切さ・基本的生活習慣（挨拶の励行・時間厳守・授業規律、遅刻指導等）・ルールやマナー・通学マナー・SNS ルール等を身に付けさせ、自ら考え行動できる自主性や自己管理能力を育む指導を行う。 （10）暴力、いじめ、窃盗等の問題行動に対して厳格に臨むとともに、特別支援教育コーディネーター・自立支援コーディネーターを核として、スクールカウンセラー・ユースソーシャルワーカー等の専門家や関係機関と連携しながら、未然防止、早期発見、早期対応に向けた取組を行う。また教育相談を充実させ、生徒への支援を行うとともに、相談しやすい体制や環境づくりを推進していく。 （11）経営企画室と連携して、安全管理・教室内の整理整頓、環境美化に努めるとともに、生徒が主体となって校内外の美化活動や防災活動を積極的に行うよう指導していく。また、マナーキャンペーン等を通じて、交通安全指導を充実させ、通学時におけるルールやマナー（自転車通学における乗車用ヘルメットの着用等）を遵守させる。
関連する数値目標	⑩授業規律の遵守率の向上 ⑪ルールやマナーの遵守率の向上 ⑫通学のルールの遵守率の向上 ⑬SNS や情報モラルの遵守率の向上
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	**１　自己評価【C】** ⑩は 87%、⑪は 88%、⑫は 91%、⑬は 92%と昨年度よりは数%減少しているが、ほぼ毎年同様な数値である。90%近い生徒は、授業規律、ルールやマナー、通学のルール、SNS や情報のモラルを守っていると回答しているが、一部（10%）に守れない生徒がおり、授業中や校内での生活において生徒・保護者からの厳しい意見や地域住民の方からの苦情がきている。校内・校外での定期的巡回も実施しているが、教員の指導や支援だけではなく、生徒の自主的な変容がみられるよう、生徒会や保護者・外部機関とも連携して、安全・安心で過ごしやすい環境づくりを行い、地域から信頼される学校にしていく。 **２　次年度以降の課題と対応策** 多様な生徒に対する支援を前提とした生徒指導を、全教職員がベクトルを一致させ、ねばり強く実施していく。 ●授業規律の徹底、セルフマネジメントでの身だしなみ等の指導を全教職員で行う。また、生徒会や部活動が主体となり、「朝のあいさつキャンペーン」・「地域清

	掃」等の奉仕活動に取組んでいく。 ●従来のマナーキャンペーンに加えて、校内及び校外での定期的な巡回を実施し、安全・安心で過ごしやすい環境づくりを行うとともに、様々な事柄に対して、未然防止・早期発見・早期対応に向けた取組を行う。

4　特別活動・部活動・健康づくり

今年度の取組目標と具体的方策	（12）生徒会や委員会活動を活性化させ、学校行事のねらいを達成するとともに、行事を通じて生徒に成就感や達成感を経験させ、生涯にわたってスポーツや文化・芸術等に親しむ素地を養う。 （13）部活動の加入の奨励と部活動を継続させる働きかけを行い、部活加入率の維持向上を図る。また、部活動に関する活動方針に基づき、チームワークづくりを重視し、学年を超えて生徒同士が高めあう集団づくりを行うことができるよう指導していく。 （14）保健体育の授業、部活動、体育的学校行事を通じて、健康づくりの基礎知識や基礎体力向上のための習慣を身に付けさせ、生徒の心身の健康づくりのための相談・支援体制を強化する。また国際理解やスポーツへの興味・関心を増幅させ「東京 2020 レガシーの構築」を実施していく。 （15）授業や行事等のあらゆる教育活動を通じて、図書館を積極的に活用し、読書活動や生徒同士の主体的な活動の取組を強化する。
関連する数値目標	⑭学校生活の充実度向上 ⑮学校行事の充実度向上 ⑯部活動の加入率 70%以上 ⑰体力テストによる生徒平均が全項目で都平均値以上 ⑱図書館の利用率向上
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	**１　自己評価【B】** ⑭は 77%で 3%減。⑮も 79%で 5%減。⑯は 55.8%で 10%近く減。学校行事に関しては、今年度文化祭の内容を見直し、生徒が主体となるよう改善を試み、質の向上を図った。学校評価の自由意見欄には、「学校行事」についても、「もっと学校行事を盛り上げていきたい」という前向きな意見が例年になく多く、アンケート結果は、昨年度より数値は下がったが、前向きな意見が反映されていることは、従来にない良い傾向であると考える。部活動に関しては、継続する力の必要性が課題である。⑰体力テストの平均値以上は現状厳しい状況だが、体育大会や秋留台公園でのマラソン大会は、生徒が目標を持って主体的に取組むことができた。⑱「図書館が、日常の学習や情報収集に役立っている」は 72%であり、昨年度よりも３%減だが、進路活動や授業、総合的な探究の時間等で利用の格差が生じている。 **２　次年度以降の課題と対応策** ●今年度以上に、生徒が主体となって、学校行事や生徒会・委員会等を運営できる体制づくりを学校全体で進めていく。 ●昨年度から校内美化に力を入れているが、引き続き清掃を徹底させ校内美化に努めるとともに、学校の施設を大事に使用する意識を高め、環境整備に努めていく。また、「あいさつ運動」・「地域清掃」も行っていく。 ●部活動加入率を向上させ、部活動を継続する力を養うとともに、あらたな部活動（同好会）を発足させ、部活動の活性化を図っていく。

5　募集・広報活動・地域貢献

今年度の取組目標と具体的方策	（16）学校説明会・学校見学会・授業体験・個別相談会の内容を工夫し積極的な取組を行い、中学生に本校の魅力をアピールし、本校を第一志望とする生徒を増やしていく。 （17）「今日の秋留台」等ホームページを通じて学校の様子を保護者・中学生・地域に発信していく。 （18）地域活動やボランティア活動等を通じ、生徒の自主性を養い、コミュニケーション能力や表現力を身に付けさせる。
関連する数値目標	⑲推薦 2.0 倍、前後期 1.2 倍以上の応募倍率 ⑳HP の更新回数 300 回以上 ㉑学校説明会等来校者数の向上
自己評価及び次年度以	**１　自己評価【B】** ⑲推薦の倍率 2.15 倍、前期倍率 0.91 倍と昨年度の低倍率から若干回復した。⑳HP

降の課題と対応策	更新回数は411回、㉑学校説明会等来校者数は1926名368名増加した。夏休みに本校の特色である、「ベーシック」の授業体験や部活動体験そして生徒会や部活動生徒によるプレゼンテーション等も行い、学校見学会も6月から始め、中学校への母校訪問等を行うなど、昨年度よりもかなり精力的に広報活動に力をいれてきた。その結果、推薦では倍率が回復したが、一次募集では1.0倍を切り、残り10数名足りない状況となった。地域貢献では、秋留台公園で行われるユニバーサルスポーツ祭・ローズフェスタ、また、地域の二宮神社で行われる生姜祭りやあきる野市の音楽の祭典に生徒会や各部活動（和太鼓部・吹奏楽部・コーラス部）が参加した。 **２　次年度以降の課題と対応** ●「学び直し」の学校として、中学校には浸透し、一定数のニーズはあるが、そこからもう一歩、第一希望の中学生を拡大できるかが課題である。次年度は、「進路指導に力を入れている学校」として広くアピールし、生徒募集の裾野を広げていく。 ●「生徒の活動が見え、地域から信頼される学校」を目指して、生徒会や部活動が積極的に地域活動に参加するとともに、あいさつ運動や清掃活動等を実施し、中学生や地域の方に「秋留台高校の良さ」をアピールし、生徒募集にもつなげていく。

６　学校経営・組織体制

今年度の取組目標と具体的方策	（19）組織体制として、調整（分掌・学年・経営企画室が協力して意思疎通を図りながら職務遂行する）と協働（教職員一人一人が当事者意識を持ちチームとして動く）を重視し、企画調整会議やその他各種会議を単なる報告会でなく、情報共有、意見聴収、課題解決と新たな取組の場に変えていく。 （20）経営参画ガイドラインに基づき、学校経営を支える企画立案への積極的な取組と、教員と経営企画室が一体となって学校経営上の課題をタイムリーに解決する。 （21）適正な予算編成と計画的・効率的な予算執行を実施。施設設備の安全管理・維持及び迅速な修繕を実施し、財産管理を適正に行うことによってリスクマネジメントを強化する。 （22）日常的な点検を怠らず、報告・連絡・相談を徹底する。また研修等を通じて体罰禁止や服務事故根絶に向けて意識を向上させる。 （23）「チーム学校」として外部人材を活用し、職員室の環境改善を実施し、計画的な仕事の進行管理に基づき、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、業務の整理と縮減・削減、超過勤務時間の削減・年休取得率の向上を実施し、働き方改革を推進する。 （24）創立50周年記念行事に向けて委員会を発足し、記念式典、生徒による成果発表、記念誌の作成、記念品の検討等関係機関と連携し、委員会を円滑に運営し、着実に進めていく。
関連する数値目標	㉒各分掌が学校経営計画に基づき、PDCAマネジメント・サイクルを確立するために、各分掌の組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施 ㉓一般需用費の学校経営支援センター利用率65%以上 ㉔一般需用費の予算執行率100% ㉕服務事故ゼロ、体罰ゼロ、会計事故ゼロの実施 ㉖教職員の個別の超過勤務時間の削減と年休取得率の向上
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	**１　自己評価【B】** ㉒学校運営連絡協議会で分掌の組織目標・中間総括・年度末総括・学校評価アンケートの結果に対して、様々な建設的な意見をいただき、学校改善に努めてきた。㉓64%、㉔約99%。㉕事故等はゼロ。㉖勤務時間外の在校時間が月45時間超の延べ人数は昨年度260人であったが、今年度は204人に減り、改善が見られた。今年度も月1回の定時退庁日を設定したが、徹底は難しかった。「ライフ・ワーク・バランスを意識して業務に取り組んでいるか」は、76%で昨年度とほぼ同様であった。また、「各学年・分掌が協力して意思疎通を図りながら職務遂行しているか」に対しては、昨年度の91.1%に比べ、76%と大幅な減となり、組織として課題が残った。 **２　次年度以降の課題と対応策** ●毎年、大幅な人事異動があるため、学校経営計画にある「調整と協働」を意識した組織体制の再構築が急務となる。教職員一人一人が当事者意識を持ち、ライフ・ワーク・バランスの向上を目指した職場環境をつくっていく。昨年度から始めた水曜日を会議・研修DAYとし校内研修をとおして、教員同士の情報の共有と教科指導の体制・生徒指導支援に対してベクトルを一致させていくことが、大きな重点目標となる。